
初恋

はしもと なおや

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初恋

【Nコード】

N6768Q

【作者名】

はしもと なおや

【あらすじ】

彼女に初恋を語るときの恥ずかしさを書いてみました

「え、初恋？」

付き合ってもう五年も経とうとしている彼女に聞かれて僕は凍りついた。静かなカフェに「初恋」なんて言葉が響いてしまった。確かに、中学校卒業から付き合っているといえど初恋は目の前にいる彼女ではない。まあただ、これをいっていいものか。

「私じゃないのはわかってるけど、ちょっと気になるだけ。私は幼稚園の……」

彼女のそんな昔の叶わぬ恋を右耳から左耳に流しながらもその男への嫉妬で僕の顔はムスツとしてくる。

「まあ、俺のは話したくない」

彼女は非常に疑い深い顔でこちらを覗ってくる。これは僕が負けるパターンだと瞬時に覚った。弱いな、僕。

「わかった。初恋は小学生のときなんだけどな、お母さんだよ。……とも」

「お母さん！？」

店内に銃声のように彼女の声が響いた。

「いいから聞け。友達の、な。」

彼女がまた銃声を発する前に続けて話した。

「いや、仲のいい友達のお母さんとかでもなんでもないんだよ。運動会とか発表会とかでたまー、に見かけるくらい。二年生のときに心を奪われてな。別にとびきりきれいで、ってわけでもないけどなんかひかれてさ。で、聞いたらクラスの女子のお母さんだったわけ」
彼女のニタニタしたようなバカにした目が気になる。

「はい、おわり！ これでいいだろ」

「……その結末は？ ほら、私だったら手紙渡したけど転校しちゃったみたいな」

なんでこいつはこういう言いたくないことときだけ、鋭くなるん

だ。どんなときよりも甘い顔をしてくる。しょうがない。

「あー。告白したよ。その前にしょっちゅう遊びいった。何回も何回も！ そのお母さんに会いたいがためにその女子に接近してな。小学二年生にしてよくやったと思うよ。で、三年生になるとクラス替えがあるだろ？ クラスが違ったら遊び来れないって危機感が子供なりにあったんだろうな。それで、相談したんだよ。その女子に少し間を開けてみたが、彼女は話を止めることを許さないようだ。」

「そしたら泣かれてさ」

「そりゃそうでしょ。君のこと好きだったんじゃないの」

「え、いや、そうなんだけどさ。で、お母さんに告白したけどうちの子のほうをよろしくねって。え、なんでわかったんだよ？」

目の前の彼女はわざとらしいため息をついた。

「だからダメなのよ。君は」

彼女は僕が再びムスツとした顔をしたのを確認した。

「だから、私じゃなきゃいけないの」

あ、ありがとう。こりゃこいつには勝てないな。

（後書き）

これは、部活の先輩で6年くらい付き合っているというひとがいて、それをイメージして書いてみました。書くのは久しぶりだったんですが楽しくかけました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6768q/>

初恋

2011年10月8日18時11分発行